☆☆☆

後ますます福祉業界と他業種の格差が広がり、人材の確保が困難になることが懸念されます。ですが、現に障害福祉に従事している仲間は、この仕事の魅力を少なからず感じているからこそ日々頑張れているはずです。コロナ禍以降、ほぼ４年ぶりに開催されている各種イベントでは笑顔があふれ、魅力が再認識されているのではないでしょうか。協会のホームページでも取り組んではいますが、この仕事の魅力をさらに外部に発信し理解してもらいたいものです。

施設運営については、昨年以降の急激な物価高騰により、経費が大幅に増加し、事業経営が圧迫されて大変苦慮している現実があります。障害福祉サービス報酬は、国が定める公定価格であるため容易に解決はできませんが、次期報酬改定に適切に反映されることを期待したいと思います。そもそも、報酬改定は３年ごとに実施されていますが、中間年等に物価高騰などの急激な変動があった場合タイムリーな対応は難しいと思います。物価上昇率や人事院勧告に基本報酬が連動する様な仕組みが構築されればありがたい限りです。

我々をとりまく状況はけっして容易なものではありませんし、今現在、報酬改定の行方が大いに気になるところではありますが、ポジティブな発想のもと希望とプライドをもって歩みを進めていくことが何より大切だと信じています。

令和5年度研究所講座の報告と6年度の講座について

1.　令和５年度研修所講座の内容と報告について

今年度は、県知協の各部会から参加している研修委員に、それぞれ担当講座を持ってもらい、具体的に参加して講師の方ともお話をして、その講座の内容について検討してもらいました。その結果を踏まえた講座内容が下の表のとおりです。

講座名	主な内容	実施日 参加人数
心理学療法講座 浜松学院大学 短期大学部教授 志村　浩二　氏	「様々な精神障害を抱えた保護者の理解と対応」 実際の事例を交えて精神疾患を抱える家族への支援について解説。実際の事例を交えての説明でわかりやすく、様々なシーンや法人内での研修でも役立つ内容です。	5/31 7/3 36 名
医療・看護講座 社会福祉法人小羊学園 つばさ静岡 施設長・医師 山倉　慎二　氏	「知的発達障害者と医療」 知的障害者施設で必要な医療、今後必要となる医療的ケア等について解説。医学の専門用語についてわかりやすく説明され、医学や看護の基礎知識を得られました。	6/16 7/21 9/29 30 名

性に関する講座 船津クリニック 薬剤師・ 思春期保健相談士 船津　裕子　氏	性教育をすることは、障害あるなしにかかわらず人権擁護に繋がるという視点、性を科学的に取り扱う講座。ライフステージに関係なく、全ての方に聞いていただきたい内容。グループワークで積極的な意見交換もされました。	9/13 20 名
障がいのとらえ方講座 社会福祉法人ふじの郷 法人本部長 小林　不二也　氏	「障がい者をどうとらえ、社会でどう支えていくかを考える」 私たちの仕事の社会的意義を考え、職員自身の従事者としてのアイデンティティ形成に役立ちます。意思決定支援や権利擁護等の話題にも触れ、グループワークでは活発な意見交換がされました。	6/7 38 名
発達障害の理解 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO 理事・統括管理責任者 弓削　香織　氏	発達障害について、端的でわかりやすい内容になっています。グループワーク等では、実際に持ち寄った事例をもとに意見交換して、現場ですぐ実践に活かせる内容になっています。利用者さんのアセスメントをとる際にも活かすことが出来る内容です。	6/22 7/27 38 名
カウンセリング講座 常葉大学教育学部 心理教育学科 元教授・学科長 杉本　好行　氏	対人援助職として必要な内容で、実習やクイズ形式での発表を通して自主的、意欲的に参加できる講座。面談や面接をする立場の人は受けておくと良い内容です。	6/29 7/13 7/27 15 名
「障がいのある人の暮らしと支援（成人期）」 （福）福浜会　理事長 髙橋 和己 氏	障害福祉の社会的変遷や制度、実践事例など障害者福祉に従事する職員として知っておきたい根幹的な内容です。経験 2～3 年目の方に知っておいて欲しいもので、自法人の理念、行動規範、年間指針などを考える時に、盛り込めたらいい内容でした。 	9/15 21 名

「障がいのある人の暮らしと支援」（児童期） 東海大学短期大学部 児童教育学科 元教授 大石 明利 氏	幼児期、児童期の障害のある利用者さんへの向き合い方に始まり、新制度のこども基本法、こども家庭庁の説明まで盛りだくさんです。 児童期に特化した愛着障害や発達障害の内容は貴重でした。	11/2 19名

２．令和６年度 研修所講座について

令和６年度については、令和５年 11 月８日に研修委員会を開き、各研修委員が実際に参加して感じた内容や意見も踏まえて協議しました。

引き続き同じ内容で継続したい講座は「発達障害の理解」「性に関する講座」「心理学療法講座」になりました。

講座日程が３日間の「医療・看護講座」や「カウンセリング講座」については、参加者にとっては満足度も高い講座ですが、３日間という日程で職員を送り出す側としては、昨今の人手不足の折かなり厳しいという意見も聞かれました。そこで、「医療・看護講座」については、講師の方とも相談し、内容を一部削ることで、日程を２日間に絞り込む方向で検討していきます。

又、「カウンセリング講座」については、参加者も少なめで、講座の対象者が曖昧でわかりにくいとの意見も聞かれましたので、例えば「自分を知る」で１日、「コーチング・リフレーミング」で１日といった具合に、目的を絞って募集してはどうかという案も出されていますので講師の方と相談していきたいと思います。

次に「障がいのある人の暮らしと支援（児童期）」、「障がいのある人の暮らしと支援（成人期）」ですが、それぞれ別々で講座を募集しているので、児童期の講座には「児童の施設のみ参加」、逆に成人期には「成人の施設のみ」といった具合に分かれてしまっていて、大変人気の講師の方々にも関わらず、参加人数が少なめでした。

参加者の声で児童の施設の職員が、成人の施設の職員の話を聞いて、「今自分たちが支援している子供たちの先が見えてホッとしました。」という感想をもらったりするなかで、これは児童期、成人期の講座を、通して２講座聞いてもらい、参加者も児童、成人ごちゃまぜの方が、お互い見えていない時期の事がわかって良いのではないか、そして児童の施設の職員にとっては「その後の将来の姿とつながり」を、成人の施設の職員は「今に繋がる愛着や育ちの時期のこと」の理解を深めることができるのではないかと感じています。「ライフステージを通しての支援～「児童期」「成人期」」といった形で実施する方向で講師の方とも相談していきたいと思います。

最後に「障がいのとらえ方講座」については、「仕事の社会的意義や職員自身の従事者としてのアイデンティティ形成に役立つ内容」で「職員として、働くにあたっての心

構えや前提となる考え方や倫理観」にも言及していて、「新人職員研修」というサブタイトルをつけて参加の募集を行ってもいい内容ではないかと講師の方と相談していきたいと考えています。

次に、ここからは従来の職員研修所講座にはなかったものですが、先ほどの「新人職員研修」に加えて「中堅職員研修」も検討していったらどうかと委員会でも話が出されました。これは、長く続いた「新型コロナ感染症」の影響もあり、最近まで、「リモート研修」が多く、それはそれで簡単に遠方の関係者とも繋がることが出来て便利なものでしたが、本来、直接顔を見ながら会話したり、いろいろな話を出して関係を深めるという当たり前の機会が希薄になってきているという危機感を感じていました。そのことを裏付けるかのように、職員研修所講座の参加者より「他の施設の職員の話が聞けてとても良かった」という感想が数多く聞かれました。これは「リモート研修」では得られない、「他の人たちと直接会話して繋がりたい」という当たり前の人としての欲求ではないかと思うのです。

そこで、「中堅職員研修」として勤めて２～３年目以上の職員の施設を超えた横の繋がり、他の施設の人との話し合いを通して、ひとりではないという気持ちを持てたり、元気をもらえるものとして位置づけ実施したらどうか、そしてその運営を「支援スタッフ委員会」に一任し、研修の組み立てから実施まで関わってもらうのはどうかという提案が出されましたので、今後「支援スタッフ委員会」とも相談し進めていけたら嬉しいと感じています。

研修専門委員会　委員長　山田　宗克

新規加入施設紹介(令和 5 年 4 月加入)

＜共同生活援助(日中活動支援型)　ゆうすげ＞

南伊豆福祉会のゆうすげ事業として運営されるゆうゆうホームは、令和４年の６月に短期入所を含めて定員 11 名でオープンしました。施設の形態も日中活動支援型の共同生活援助ということもあり、車椅子や歩行器を使用した方々の利用が主となっています。本体施設である障害者支援施設さしだ希望の里の高齢化に伴い、新たな受け皿として期待されオープンしました。

私が入職した 20 年ほど前に当法人でも生活寮(現在はグループホーム)がオープンし、地域に移行する過程を確認

する事ができました。当時の生活寮利用者さんは、施設に入所されていた方々の中でも比較的職員の介助を要しない方々が主でした。入所歴が長かった利用者さん達にとって、生活するうえでの課題が多く出てきましたが、それすらも楽しめているようにも見受けられました。当時は ADL の低下していた方々は対象外であり、そのような方々が地域で生活することなど考える事もできず、このまま施設での生活が続くものであると考えていました。そんな中、利用者の高齢化や施設の設備面での対策としてゆうすげ事業が立ち上がりました。お風呂は 2 種類の機械浴が整備されトイレや廊下の手すり、昇降式のテーブルと、施設生活で課題となっていたことを解消した、車椅子や歩行器を必要とした方々の利用に特化した造りとなり、地域での生活が可能となりました。

ゆうゆうホームでの生活も 1 年以上が過ぎ、ようやく生活も落ち着いてきたところであると思います。日中は慣れ親しんだ場所での生活を希望する方が多く、本体施設の生活介護を利用されている方が多いです。比較的高齢の方が多いため日々の健康管理には十分注意しているところですが、ゆうゆうホームでの生活がなるべく長く続くよう、サポートを続けていきたいと思います。

＜かりん＞

宍原荘の敷地内にある『かりん』は清水区宍原の国道 52 号線沿いにあり、新東名・新清水 IC から車で 3 分にあり、開所したのは平成 28 年 4 月です。就労継続Ｂ型と生活介護の多機能で活動して、就Ｂ定員 10 名で現在 8 名・生活介護は 19 名の計 27 名で作業を行っています。主な活動として請負作業を中心に、除草作業や手芸品等の自主製品を販売し工賃向上に楽しみながら作業を行っています。また、余暇の充実として月 1 回程度、支援員が外出を計画して外食を中心に出掛ける事で作業への活力にしています。
かりんではご利用者皆さんで決めた 3 つの目標があり「支援員の指示を守ろう」「協力して作業しよう」「楽しく作業しよう」を守れるよう作業しています。

＜工房めい＞

今年度から入会しました「工房めい」です。5月にできた施設なので「めい」と名づけました。あかるくという意味も込めています。

施設で暮らす方、グループホームや在宅から通う方の社交の場となっており、鶏卵（どうまい卵）の梱包、販売、受注作業、健康維持などそれぞれの特徴を生かした活動に取り組んでいます。また、個性を尊重し、食事会、レクリエーション、旅行などの余暇支援も大切にしています。

みなさん、よろしくお願いします。

東海地区施設職員研究協議会概要・実施報告・参加者の声

静岡県知的障害者福祉協会　副会長
実行委員会　委員長　仲安　寛元

＜概要＞

1. 開催日時　令和５年 10 月５日（木曜日）12:00 ～10 月６日（金曜日）12:15
2. 会　　場　グランドホテル浜松　浜松市中区東伊場 1-3-1
3. 参加人数　264 人（静岡県 125 人、愛知県 56 人、岐阜県 41 人、三重県 33 人、来賓その他９人）
4. 大会テーマ　「フォー スマイル 原点回帰　私たちがなすべき支援とは」
5. 主　催　　日本知的障害者福祉協会東海地区会
6. 主　管　　静岡県知的障害者福祉協会
7. 後　援　　静岡県、浜松市、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会、社会福祉法人浜松市社会福祉協議会、静岡県手をつなぐ育成会、東海北陸手をつなぐ育成会協議会、静岡県知的障害児者生活サポート協会、静岡県作業所連合会・わ、一般社団法人 静岡県社会就労センター協議会、NPO 法人オールしずおかベストコミュニティ、静岡朝日テレビ、テレビ静岡、静岡第一テレビ、毎日新聞静岡支局、朝日新聞静岡総局、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、NHK 静岡放送局、読売新聞静岡支局（順不同）
8. 日程

10 月　５日（木曜日）

12：50～13：30　　開会式

- ✧ 開会の言葉　静岡県知的障害者福祉協会　副会長　家込 久志
- ✧ 主催者挨拶　日本知的障害者福祉協会東海地区会　会　長　川崎 純夫
  静岡県知的障害者福祉協会　会　長　池谷 修
- ✧ 来賓挨拶　静岡県知事　川勝 平太　様（代読）

浜松市長　　中野 祐介　様（代読）
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会　常務理事　髙橋 邦典　様
✧　来賓紹介　　公益財団法人日本知的障害者福祉協会　会　長　井上 博　様
13：35～14：35　　中央情勢報告
公益財団法人日本知的障害者福祉協会　会　長　井上 博　様
14：45～17：00　　分 科 会
第１分科会　　児童発達支援部会
第２分科会　　障害者支援施設部会
第３分科会　　日中活動支援部会
第４分科会　　生産活動・就労支援部会
第５分科会　　地域支援部会
第６分科会　　相談支援部会
18：00～20：00　　情報交換会
✧　開会の挨拶　　（一社）岐阜県知的障害者支援協会　会　長　平下 博文
✧　乾杯の発声　　日本知的障害者福祉協会東海地区会　会　長　川崎 純夫
✧　中締めの発声　静岡県知的障害者福祉協会　　副会長　天良 昭彦
10月　６日（金曜日）
9：00～11：45　　実践報告
✧　講師　　社会福祉法人　佛子園理事、Share 金沢施設長 清水 愛美　様
✧　演題　　「ごちゃまぜのまちづくり」
✧　ファシリテーター　　社会福祉法人　天竜厚生会　理事長　山本 たつ子　様
11：55～12：10　　閉 会 式
✧　次期開催県挨拶　　三重県知的障害者福祉協会　　会　長　山野 文照
✧　閉会の言葉　　静岡県知的障害者福祉協会　　副会長　仲安 寛元

9.　事業効果

大会テーマ「フォー スマイル 原点回帰　私たちがなすべき支援とは」を踏まえ、１日目は「中央情勢報告」のほか、施設種別ごとの分科会において、「あなたの笑顔のために私たちが取り組んでいること」、「コロナ禍収束で思う原点回帰とは」などの研究協議テーマについての事例報告を受け、グループ討議や意見交換を行うなど、研究討議を行った。

２日目は、高齢者、若者、子ども、障害者などが「ごちゃまぜ」に暮らす共生の街づくりを進めている、佛子園の取組についての講演とその後の１時間の質疑応答を通して、共生社会の実現に向けた実践への理解が深まった。

２日間の研修を通じて、今後の施設で提供する福祉サービスの向上に繋がる気付きや共生社会実現に向けた意欲の高まりなど、大きな成果を得ることができた。

＜研究協議会の様子＞

詳しい画像は、静岡県知的障害者福祉協会ホームページをご覧ください。

～　開会式　～

～　開会式（池谷会長挨拶）　～

＜実施報告＞

４年ぶりに開催された第 60 回東海地区知的障害関係施設職員研究協議会は、東海４県から 264 名が参加し、２日間の日程を盛会のうちに終了いたしました。

今回のテーマであるフォースマイル「原点回帰」は、新型コロナの期間を経て、私たち障害関係施設職員が目指すべきミッション・ビジョンの再確認を目的として掲げられました。本大会では、ご参加いただいた皆様がテーマに掲げられた思いを共有するとともに、志を新たに再認識する機会となったことと思います。

基調講演では、井上会長が日本知的障害者福祉協会の立ち上げについて触れていただきました。先人たちの設立時の強い意思とご苦労を知り、改めて身が引き締まる思いがしました。各分科会では、６つの分科会ごとに大会テーマに沿って各施設から発表がありました。どの現場においても支援の難しさや課題はありますが、子どもたちやご利用者の方々の主体性や意見表明を主眼においた支援の在り方について、活発な意見交換がありました。２日目の実践報告では、佛子園・清水様がたびたび触れられていた「ごちゃまぜ」の中に、現代社会で失われかけている多様性を包摂する「やさしさ・寛容性」の重要性を感じました。

各セッションの意義や成果は言うまでもありませんが、職員の皆様が一堂に会して行った大会自体に大きな意義があったと思います。コロナにより、人と人との接触が制限された数年間で、デジタルを活用した新たなツールを獲得した一方、他者との関係構築に困難さを感じるようになりました。４年ぶりに対面で行われた大会は、現場で働く職員の皆様が直にお会いする中で、人と人とがつながることの大切さ、そこから得られる共感・連帯感を再確認する機会となったのではないでしょうか。今後におきましても、大会テーマである「フォースマイル」笑顔の絶えない支援と環境づくりを目指していくことができればと思います。

最後に、大会の開催にご尽力いただきました施設・事業所の皆様、運営スタッフの皆様に多大なる感謝を申し上げます。ありがとうございました。

＜参加者感想＞

研修を終えた時、私の心は「〇〇さん、△△得意だったから…声かけて一緒にやってみよう」、「××さん、そこが××さんらしさなんだな」など、利用者さんと過ごす明日からの時間を想像し、ワクワクで満ち溢れていました。それは、テーマに掲げられた「フォースマイル」をどのような形で、どのような気持ちで実践されているかを教えていただき、支援の原点に戻ることができたからです。

笑顔は自分にも周りの人にもパワーや活気を与え、多くの繋がりを作り出すことができます。紹介していただいたどの施設も、数々の素敵な笑顔と、やる気を感じさせてくれる利用者さんの姿がありました。そして、利用者さん同士、利用者さんと地域の方、色々な年代の方、職員…様々な人との繋がりがありました。喜びや自分の存在の大切さを感じる瞬間があり、心が豊かになっていき、自然と笑顔が溢れていく様子を教えていただきました。支援の原点は、そこに関わるみんなの笑顔なんだと強く感じました。

さあ、私の施設でどのようにしてその方のあふれんばかりの笑顔を、その人らしく生活する姿を、一緒に創り出していこうかな。仲間と一緒に笑顔あふれる毎日を過ごし、どんどん笑顔の更新をしていこう。こう思えるような素晴らしい研修を企画していただき、本当にありがとうございました。

令和5年度　第36回静岡オレンジマラソン大会を終えて

去る11月２５日土曜日に静岡県草薙総合運動場陸上競技場において第36回静岡オレンジマラソン大会が開催されました。新型コロナウィルス５類移行後初めての開催であり、少し肌寒い天候でしたが無事開催する事ができました。

今年は昨年と同様、3,000ｍ、1,500ｍ、1,000 に加え 100ｍも取り入れ、より競技に参加しやすい距離を設定しました。スタンドからの声援に加え、フィールドでは、静岡のゆるキャラも３体集合し大会を盛り上げてくれました。

大会には児童から壮年の方まで多くの方が出場され、自己記録更新を目指して一生懸命ゴール目指して頑張る姿が印象的でした。また競技の間には常葉大学チア部の方と参加者、関係者全員でグランドに広がってダンスができたのもいい思い出になったと思います。

大会運営のボランティアにご参加下さった皆様をはじめ、協力員、実行委員の皆様のおかげで全ての競技を無事に終えることができました。

中部地区理事・実行委員会委員長
大澤将孝

雑感－つづる－

こう見えて(見えませんが)、自分、文学部出身です。正しくは文理学部文科人文課程。書道の講義で「一」の字が合格するまで半年かかったのは誰にも言えない秘密です。だから･･･ではありませんが、文・言葉に対する思い入れは強いです。書き方って人それぞれ、個性があります。例えば個別支援計画。同じ内容でも、作成者の思いやこれまでの人生で様々な表現があって当然、それが醍醐味の一つではないでしょうか。言葉尻の添削？表現の統一？つまらないつまらない。思いがそこにあるのなら、余程の表現でなければそれはよし。画一的な文章が必要な方は、AI に書いてもらえばよいでしょう(サビ管・児発管の皆さん、ごめんなさい)！？

それはさておき、「字は体を表す」という格言があります。文字はその人の性格を表している、という意味です。字の汚さには自信がある自分、「ああ、やっぱり雑な性格だな」と納得。他の人の字を見ては、「あの人らしい優しい字だな」とか「やっぱりクリエイターだ

な」と独りごちてます。ただ、今はWordやLINE、SNS等ディスプレイ越しの文字が当たり前。読みやすいとは思いますが、横並びな言葉遣いだったり、誰かが「このフォント」というと皆同じフォントを使ったり。人柄を想起させる文字、個性を感じさせる文章が少なくなっています。それじゃあ感情・思いが伝わらない。味気ない。時々、言葉を変えたり、「自分はこれ」というフォントを使って楽しんでみませんか？

おはようございます。松下です。

おはようございます。松下です。

おはようございます。松下です。

おはようございます。松下です。

おはようございます。松下です。

おはようございます。松下です。

ほら、同じ文でも、受ける印象、全然違うでしょ！

※ ちなみにこのフォント、ここ一番という資料作成時に使う勝負フォント、天浜線フォントです。長文だとやや読みにくいけど･･･レトロかわいくて、気に入ってます。

天浜線フォント：http://www.hama365.info/tenhamasenfont/

(福)和松会　生活介護事業所ぴの ほーぷ　　サビ管失格？　松下